

満開後の日数で見ると、果実の肥大はやや不良となっています。裂果が例年よりも多くなっていますが、果実肥大のピークが過ぎるまでは、黒星病感染果以外は摘果せずに残しましょう。

## 【気象】

### ■気象条件

6月2半旬に降水量が多くなり、黒星病に感染した葉や果実が増加しました。7月2半旬から平均気温は平年よりも4℃低くなっています。この時期に低温に遭遇すると「豊水」のみつ症の発生が増大する傾向が見られます。また、7月は降水量が平年よりも多く、日照時間が少なくなっています。

表1. 令和元年6～7月の気象（アメダス佐倉）

月	半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
6月	1	21.4	21.4	19.6	0	0	16	26	51	26
	2	19.4	22.2	20.1	78	42	18	12	25	23
	3	18.9	19.2	20.5	36	41	24	26	4	20
	4	22.8	19.2	20.9	4	38	29	43	12	18
	5	21.1	21.6	21.3	29	31	30	9	22	16
	6	23.3	27.1	21.9	16	0	28	17	47	17
6月平均/計		21.1	21.8	20.7	162	151	146	131	161	120
7月	1	22.5	28.0	22.7	19	0	27	5	42	19
	2	19.5	25.9	23.4	42	35	26	7	30	20

注) 平年は昭和56～平成22年の30年間の平均

## 【生育状況】

### ■果実の肥大

7月8～9日の果実の大きさを満開後日数の横径の平年値と比較すると、農林総研の「幸水」が96%、「豊水」が91%と小さくなっています(表2)。市川市の「幸水」では98%、鎌ヶ谷市の「豊水」では102%と平年並となっています。なお、農林総研の「幸水」では、生理的な裂果が「幸水」では10%、「豊水」では4%と多く発生していますが、肥大量の減少とともに低下する傾向が見られます。

表2. 基準調査園における生育調査の結果(7月9日、鎌ヶ谷市は8日)

品種	調査地	樹齢	横径 (cm, (%))			縦径 (cm, (%))			着果数 個/樹
			果径	暦日	満開後	果径	暦日	満開後	
幸水	農林総研	34	5.56	(86, 99)	(97, 96)	4.54	(84, 99)	(93, 95)	448
	市川市	34	6.10	(85, 104)	(99, 98)	5.14	(85, 102)	(96, 96)	534
豊水	農林総研	39	5.20	(84, 102)	(90, 91)	4.64	(85, 101)	(92, 92)	586
	鎌ヶ谷市	35	5.54	(93, 108)	(101, 102)	4.96	(90, 107)	(98, 102)	750

注) 横径及び縦径の( )は、前年及び平年の値を100とした比で表した。

### ■作柄の予想

満開後 80 日の果径（農林総研）から予測される「幸水」の収穫果重は 305 g で、平年の 96% と小さめです。収穫日は、概ね開花日によって決まります。過去のデータを用いて今年の収穫盛日を予測すると、農林総研の「幸水」では 8 月 16 日、「豊水」では 9 月 1 日となります。

「豊水」のみつ症は、満開後 91～100 日の日最高気温の平均値が低い年に多発する傾向にあります。農林総研では 7 月 7～16 日とその期間に当たります。その期間の気温から予測した「豊水」のみつ症の重症果の発生予測値は 34% と、過去 5 年平均の 9% を大幅に上回っています。冷夏であった 1993 年のデータと比較すると、この年の発生予測値は 36% であったのに対し、実際の農林総研での発生率は 46% でした。なお、みつ症は水浸状の症状が一般的ですが、1993 年はスポンジ状でした。また、みつ症は 5～6 月と夏季の高温によっても発生が助長されますが、本年は 5 月の平均気温が平年より 1.5℃ 高いため、これが多発の要因となる可能性もあります。いずれのデータからも多発生が見込まれるため、選果の徹底や消費者への通知などの対策を検討ください。

気象庁（7 月 11 日発表）の 1 か月予報によると、気温は平年並で、日照時間は少なく、降水量は平年より多いと予想されています。

## 【栽培管理のポイント】

### ■仕上げ摘果の実施

「幸水」では、極小果や裂果を 7 月中旬頃に摘果しますが、黒星病発病果や変形果などは見つけ次第摘果します。果実の日肥大量は、農林総研では「幸水」が 7 月 20 日ごろ、「豊水」では 7 月 30 日ごろまで大きい状態が続くと見込まれます。果実肥大のピークが過ぎるのを確認してから摘果しましょう。

### ■病害虫対策

千葉県（7 月 10 日発表）の病害虫発生予報によると、向こう 1 か月間の予想発生量は、黒星病、アブラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類のいずれも並となっています。

表 3. 協力調査地における生育調査の結果（7 月 10 日）

品種	調査地	樹齢	果径 (cm, %)		新梢停止期	病害虫発生状況及び特記事項
			横径	縦径		
幸水	市原市	35	6.82 ( 89 )	5.52 ( 86 )	6月23日	黒星少、裂果多、風による落果
	木更津市	13	6.60 ( 93 )	5.34 ( 90 )	6月19日	裂果出始める
	館山市	28	5.58 ( 72 )	4.68 ( 74 )	7月2日	降雹被害で肥大が悪い
	印西市	21	6.11 ( 85 )	5.03 ( 84 )	6月30日	
	柏市	16	6.01 ( 93 )	5.01 ( 94 )	6月25日	
	いすみ市	36	6.63 ( 96 )	5.35 ( 98 )	6月20日	
	一宮町	32	5.76 ( 87 )	4.68 ( 82 )	6月23日	
豊水	香取市	27	6.05 ( 84 )	5.77 ( 94 )	6月18日	
	八千代市	16	5.45 ( 90 )	4.96 ( 91 )	6月24日	黒星多、裂果多、赤星少
	旭市	42	5.82 ( 85 )	5.24 ( 83 )		黒星並、裂果少
	香取市	16	5.28 ( 85 )	4.71 ( 84 )	7月2日	裂果多
あきづき	四街道市	12	5.80 ( 94 )	5.25 ( 92 )	7月3日	
	鎌ヶ谷市	20	5.26 ( 92 )	4.63 ( 93 )	7月8日	アブラムシ少
	船橋市	8	5.15 ( 89 )	4.29 ( 85 )	7月3日	
	松戸市	13	5.41 ( 89 )	4.68 ( 89 )	7月10日	
	いすみ市		5.10 ( - )	4.42 ( - )	7月4日	

注) ( ) 内の値は、前年対比を記載。なお、前年は開花が早いため果径が大きい。

【生育情報の問合せ先: 千葉県農林総合研究センター 果樹研究室 電話 043-291-9989】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.htm>

